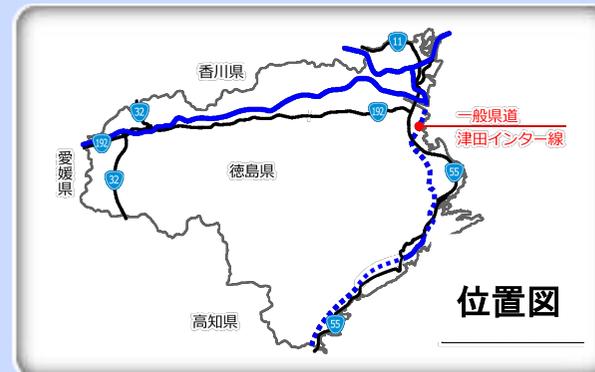


再評価【番号5】

一般県道 津田インター線
津田工区

1. 事業概要

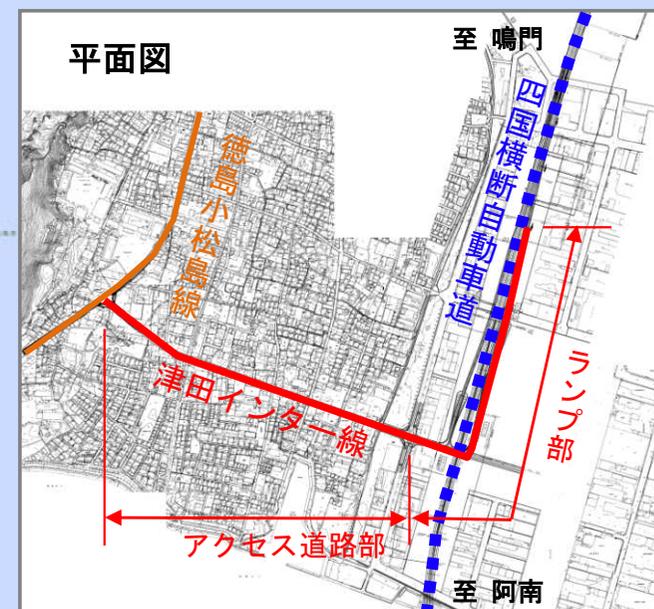
位置図



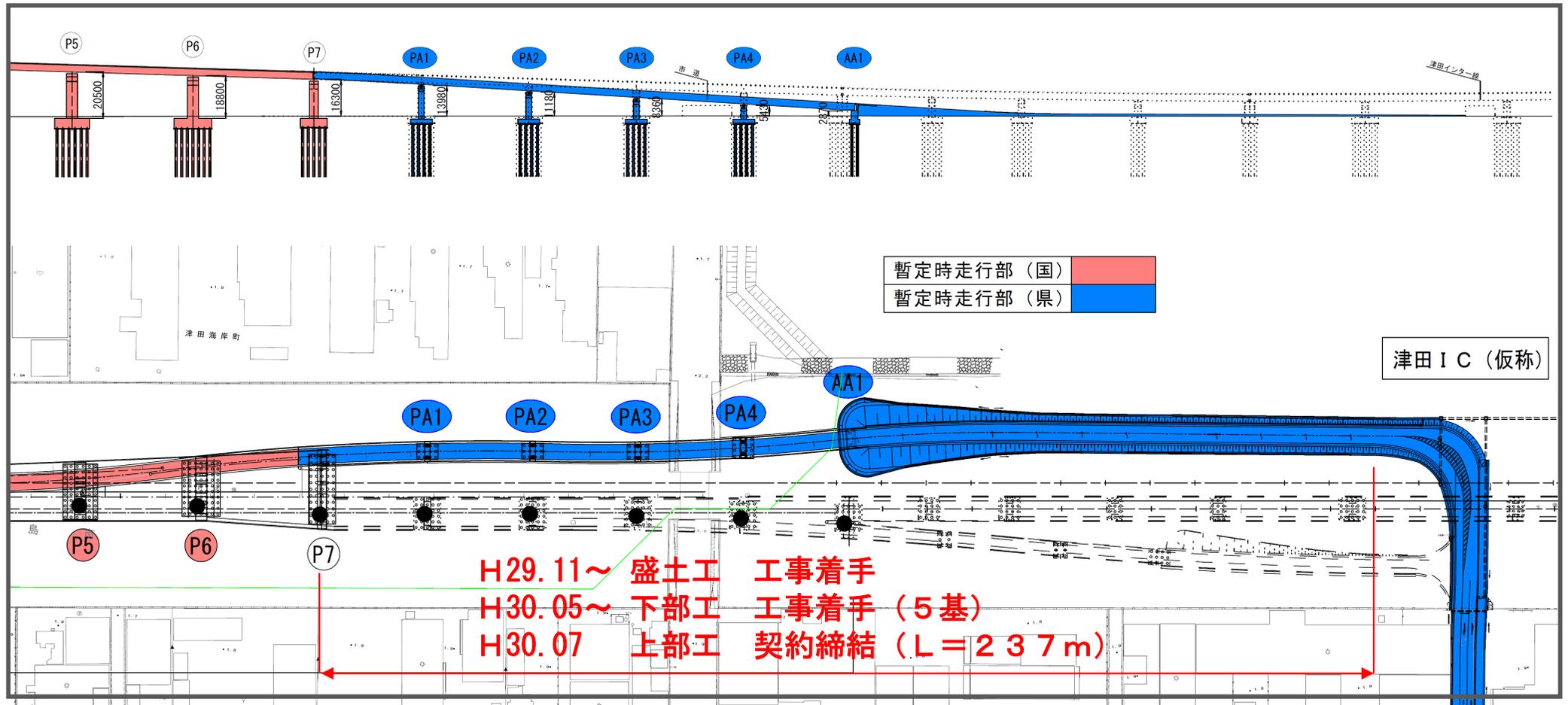
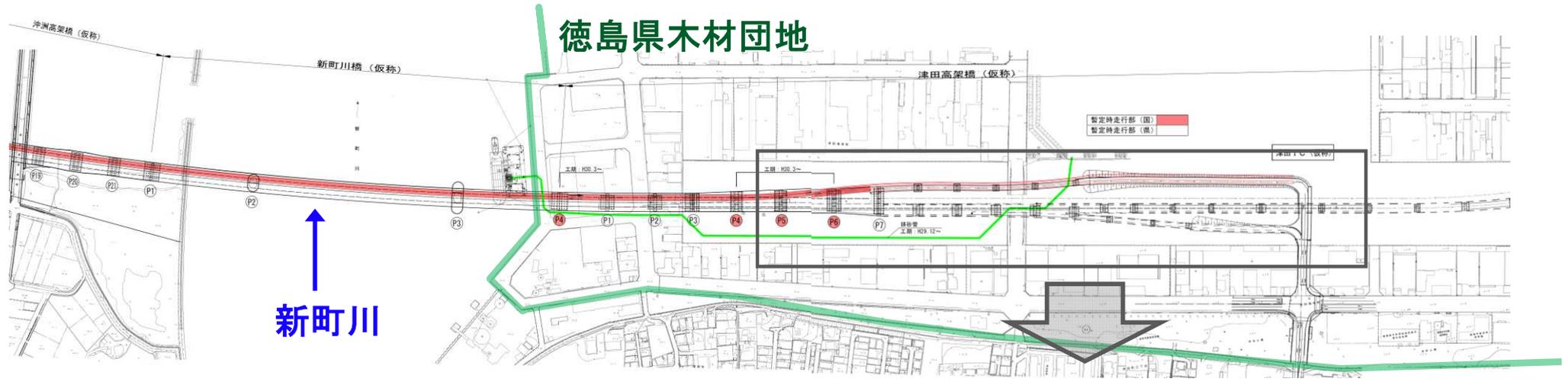
凡例

- 四国横断自動車道 (未供用区間)
- 国道(現道)
- 国道(未供用区間)
- 県道(現道)

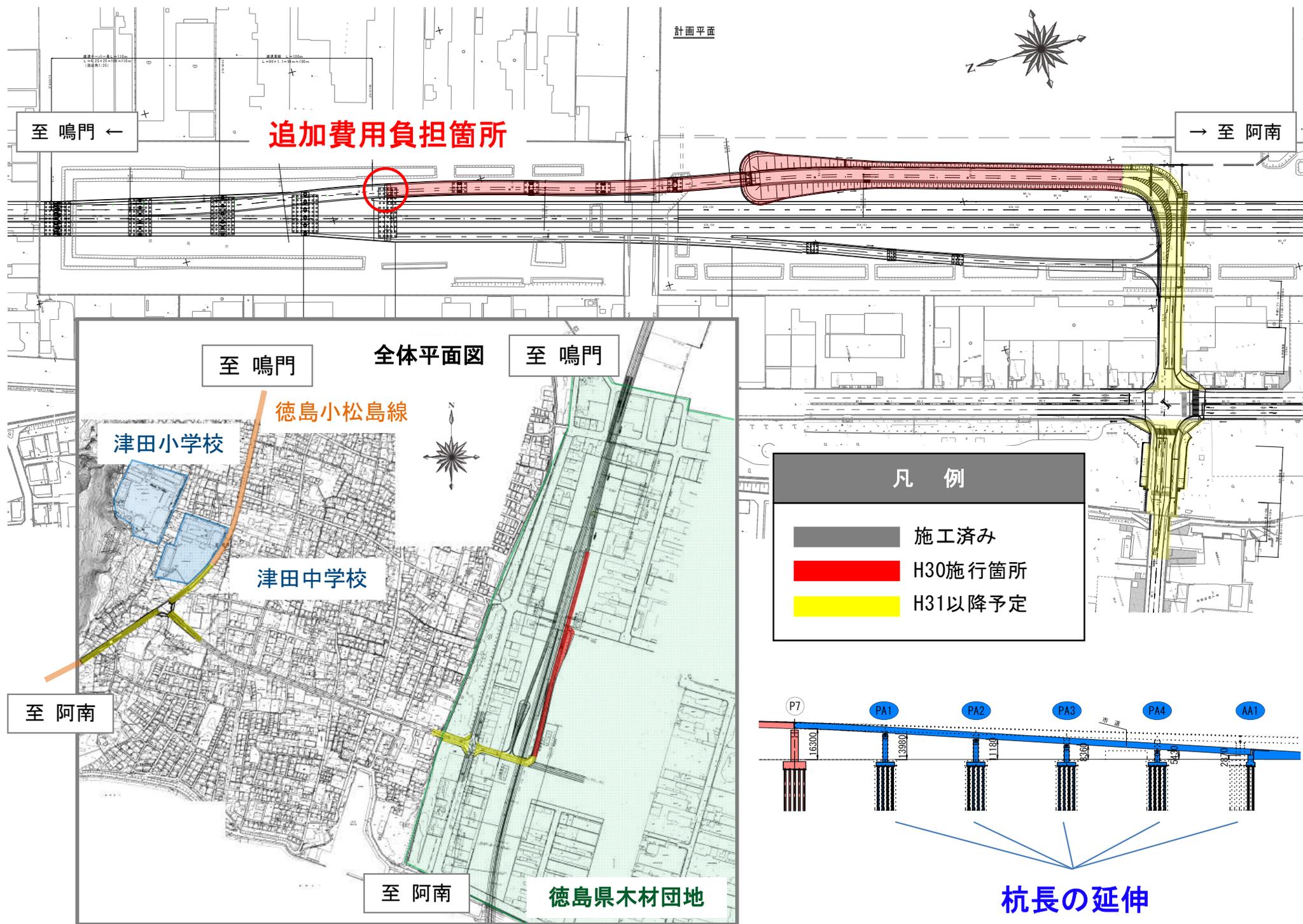
平面図



2. 事業の進捗状況



3. 全体事業費の変更理由



4. 道路整備による多様な効果①【活動圏域】

◎その他の便益



環境

- 騒音低減効果 1.0 億円
 - ・ **現道沿いの騒音の低減効果**が見込まれる。
- 地球環境の保全効果 0.5 億円
 - ・ **CO₂、NO_xの排出量が抑制**され、**大気汚染・温暖化防止効果**が見込まれる。

活動圏域

- 広域的な道路交通ネットワークの構築
 - ① アクセス性の強化
 - ・ **交通流の分散**が図られ、国道11号などの**混雑緩和**が期待される。
 - ② ネットワークの強化
 - ・ 徳島市街地と**県内全域の生活圏の連携強化**が図られる



社会活動圏域の拡大

5. 道路整備による多様な効果②【地域産業活性化】

◎その他の便益

地域産業活性化

■徳島県木材団地の「リノベーション」による経済活性化

① 整備効果の早期発現

- ・ ICの「ランプ部」及びICアクセス道路となる「既存道路」を改良することにより、**四国横断自動車道と一体**となって整備効果を早期に発現させる。

② 産業・流通拠点の創出

- ・ 木材団地として整備された「**重要港湾 徳島小松島港（津田地区）**」の活性化を支援し、当該地周辺に新たな産業・流通拠点を創出させる。



「陸・海・空」交通体系の発展

ストック効果の最大化

6. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **53.1億円**
(現在価値化後)

その他の便益

環境

- ・ 騒音低減便益 1.0 億円
 - ・ NOx低減便益 0.2 億円
 - ・ CO2低減便益 0.3 億円
- 計 **1.5億円**
(現在価値化後)

※費用C=29.4億円 (現在価値化後)

$$B/C = 1.8$$

(参考) その他の便益を含むB/C=1.9

貨幣価値に表れない整備効果

活動圏域

- アクセシ性の強化
⇒ 交通流の分散が図られ混雑緩和
- ネットワークの強化
⇒ 県内全域の生活圏の連携強化

地域産業活性化

- 整備効果の早期発現
⇒ 四国横断自動車道と一体
- 産業・流通拠点の創出
⇒ 重要港湾 徳島小松島港(津田地区)の活性化を支援

■ 今後の対応方針(案)

事業継続